

令和2年度第2回宇都宮市交通安全審議会会議録

- 1 日 時 令和3年1月15日（金）
- 2 出席者 平松委員，今野委員，成島委員，小平委員，岡本委員，古池委員，
長田委員，大野委員，大塚委員，加藤委員，小池上委員，佐原委員，
中里委員，宮井委員，新井委員，今井委員，五十嵐委員，松川委員，
谷委員，高木委員
- 3 議 事 (1)「(仮称)第11次宇都宮市交通安全計画」の施策・事業等について
(2)「(仮称)第11次宇都宮市交通安全計画」の目標値等について

4 開催形式 書面

5 会議経過

(1)「(仮称)第11次宇都宮市交通安全計画」の施策・事業等について

成島委員 重点的に取り組む課題である「子どもや高校生の安全確保」，「高齢者の安全確保」，「自転車利用者の安全確保」については，先進事例なども参考としながら効果的な取組を推進していただきたい。

小平委員 ICT環境整備に併せた交通安全教育の実施においては，ICT端末の整備状況に応じ実施可能であれば，小・中学校同様に市内高等学校も実施対象とすることを検討するべきではないか。

(2)「(仮称)第11次宇都宮市交通安全計画」の目標値等について

成島委員 本市と同規模の自治体の現状や目標，先進事例を行っている自治体の目標値なども参考としながら設定すると，より良い結果につながる可能性があると考え。

小池上委員 施策の柱Ⅱの「地域と連携した道路交通環境の整備」のうち，基本施策(2)「人優先の安全・安心な歩行空間の整備」について，視覚障がい者のために音響式信号や横断歩道のエスコートゾーンが必要である。また，歩道上の電柱や標識に歩きにくさを感じる。

(5)「LRTをはじめとする公共交通ネットワークの整備」については，今後，高齢者の運転免許証自主返納が増加すると思われるため，必要な施策と感じる。また，交通空白地域でのデマンド型交通システムの充実が，高齢者や障がい者の生活を助けることになると思う。

新井委員 今年度も，高校生のうち新一年生の交通事故が多く，指導にも大変苦労している。目標値の達成に向け，努力していきたい。

(3)その他

成島委員 今後，LRTに関連する交通安全対策が重要になってくると考えられる。まだ体験したことのない変化であることから，今後の課題として，市民はも

とより市外から本市を訪れる方々に対して、どのように交通ルールについて周知徹底していくのか、準備していくことも大切であるとする。

加藤委員 交通安全に関して、簡単にできる取組があれば教えていただきたい。
高齢者の自転車ヘルメットについて、県を通じ栃木県トラック協会から寄贈を受け高齢者に配付されているが、着用率が低いとのことだった。私の周りには配付はされておらず、自転車ヘルメットの値段もわからないため対策をしていないので、どのくらい費用がかかるのか、また、今後配付の計画があるのか教えていただきたい。

小池上委員 LRTが視覚障がい者にとって利用しやすいものになるのか心配である。停留場のエスコートゾーンや、車両内の設備など、視覚障がい者等へ配慮いただけるとありがたい。

自転車の走行マナーについて、オリオン通りを走行する自転車がスピードを落とさず2～3列で並進しており、危険を感じる。

音響式信号について、時間制限があるのはやむを得ないとしても、活動時間に見合った設定をお願いしたい。また、将来的にはスマートフォンアプリを利用し、信号が認知できる方法を考えていただきたい。

歩行空間における環境整備について、本市は他の県庁所在地に比べ、点字ブロックやエスコートゾーンの劣化が目立つため、メンテナンスをしていただきたい。

地域連携ICカード「t o t r a」について、触れて向きが判別できる切れ込みがあるとよい。

佐原委員 重点的に取り組む視点(1)「子どもや高校生の安全確保」について、平成30年の調査において、栃木県は「信号機のない横断歩道における一時停止率」が全国ワースト1位であった。学生に自転車の安全教育を行うとともに、車に乗る大人の意識を変えていく必要があるとする。今後設置されるキッズゾーンについても、大人の意識が低ければ十分な効果を上げられないため、よろしくをお願いしたい。

中里委員 キッズゾーンの設置に関して感謝している。今後、自動車や自転車などの通行者が減速して通過するなど、交通安全を意識した行動につながることを期待している。

宮井委員 子どもや高校生に係る取組については教育委員会等と連携を図りながら進めていただきたい。

また、子どもの登下校についてなど、保護者の交通安全への意識を高める取組をお願いしたい。